

「いじめ問題解決のすじみちを探る」 ★すじみちを探る「コメント」がたくさんありました

いじめ問題をどう解決するか・：教職員・スクールソーシャルワーカー・子ども問題のNPO・新聞記者などで集いを開きました。

参加者の声を紹介し、詳しい報告はパンフレットとして発行します。

- ◆取り締まりの対象として捉えやすいので「いじめは犯罪」という言い方は危険だと思う。 中学校教諭
- ◆一方的に「これはいじめです」言われても、理解できない子どももいる。これだけ「人をいじめてウケる」メッセージをテレビ番組でも受け取っているのだから。
- ◆「その子にとってのいじ

めとは？友達とは？」を聴き取ってほしい。SSW

◆「できる・できない」「はい・おそい」など学校に常に競争が横行している。「競争すれば向上心をもつ」という神話がある。子どもががんばるのはそこではない。 小学校教諭

- ◆「隣の友達が今どんな状況にいるのか気づけない子が多い。隣にいるのは、競争の相手ではなく、心をつなぎあう仲間はずだ。 小学校教諭
- ◆家庭に様々な状況があっても、学校では平等でいられる。学校とはそういう場所のはず。 小学校教諭
- ◆競争的価値観をもって“勝ち抜いた”青年でも、

引きこもったり働けなかったりして、社会に出られない人がいる。社会が子ども・若者の前に立ちふさがっている。 NPO職員

◆子どもの中に、共に生きていく仲間という文化が大切。子どももおとなも、同じ困難の中で生きていく。共に社会をつくっていく存在として。 NPO職員

- ◆いじめの深刻化と貧困・格差の問題は密接に関連している。おとなを苦しめている社会（企業での労働者いじめなど）の仕組みを見抜く力がなければ、子どもの問題は解決できない。 新聞記者
- ◆今の社会では親が子どもモデルになることができ

ず子どもに希望を語れない悩みを感じる。NPO職員

◆パート労働の親が仕事を休んだり早退したりして学校に行くということは相当なリスク。やめさせられる可能性だってあるのだから働く親の労働環境を知ってほしい。働く親にとって学校が高い壁になっている。 新聞記者

◆自分の立場から一歩出て、想像すること、思いやることが大切だと実感している。 SSW

- ◆『どうしたらいいですか？』と悩みを聞いてくれる先生が相談しやすい先生です。 SSW
- ◆いじめはなくなさなければならぬ。でも、先生方には、どうか子どもの前で『いじめはなくなさなければならぬ！』とはやらないでほしい。子どもたちは「・・・ねばならない」に苦しんでいるのだから。今必要な

は、いっしょに考えてあげる柔軟さだと思います。 NPO職員

進行しながら大切だと感じたのは、様々な立場の方々が、自分の抱えている困難さや期待を素直に出し合うこと。評価やクレームとしてではなく、子どもを見守るおとなの思いとして、それを想像し合うこと。わからない、どうしていいかわからないときは、聞いてみることに。

今後、学校・家庭・地域がお互いを知り合う場、交流し希望を紡ぐ場をつくらせていきたいと考えています。 (和泉)

